

【サツマイモ基腐病】育苗期の防除対策のポイント

(1) 育苗ほ場の準備

育苗ほ場は、必ず、つる割病予防を兼ねてバスアミド微粒剤など殺菌効果のある土壌消毒剤で土壌消毒を行う。消毒時は、適切な土壌水分と地温15℃以上を確保する。

(2) 健全種イモの確保

発病ほ場から収穫したイモを種イモに利用すると育苗時期に発病するため、必ず健全ほ場から種イモを確保する(図1)。

苗床に伏せ込む前に、病害発生イモや傷の多いイモなどは取り除き、健全なイモのみを利用する。

(3) 種イモの消毒

黒斑病を防除するために、トップジンM水和剤で種イモを消毒する。(9月下旬～10月下旬)
 処理方法: 200～500倍, 20～30分間種イモ浸漬

(4) 発病イモの除去

育苗期に発病した株は、地上部の変色やしおれ症状が見られるため、**症状を確認したら直ちに種イモごと抜き取り**、ほ場外に持ち出し処分する(図2)。

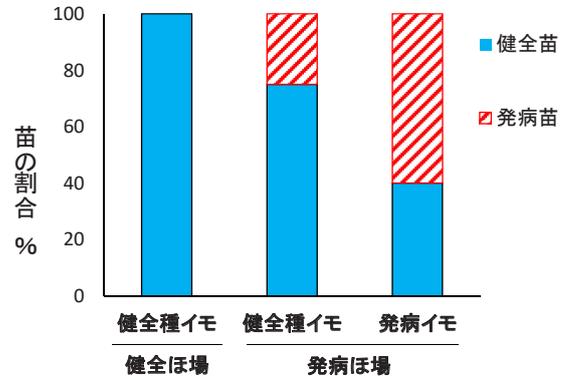


図1 健全ほ場および発病ほ場から収穫した種イモによって生産した苗の発病状況



図2 育苗ほ場におけるサツマイモ基腐病の症状

(5) 採苗方法と苗消毒

○ 苗は、基部から離れるほど病原菌の感染リスクが低くなる。そのため、地面から5cm程度離れた位置で採苗すると、より健全な苗が確保できる。

○ ペンレート水和剤による**苗消毒**は、初期の発病抑制効果が高いので、**必ず行う**(図3)。苗消毒は必ず採苗当日に行い、消毒液は**使用当日に調整**したものを使用する(図4)。



図3 ペンレート水和剤による苗の消毒効果

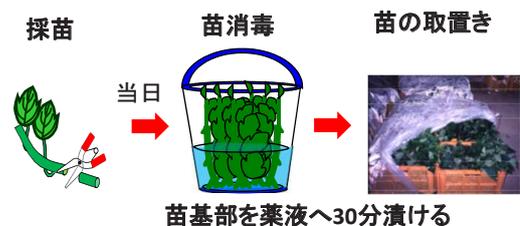


図4 適切な苗消毒方法

※本情報は「イノベーション創出強化研究推進事業(01020C)」の成果を活用